

釜ヶ崎講座ニュース NO. 53

〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋1-9-7

釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

Mail Kamakouza@cow2.bai.ne.jp

<http://cow2.bai.ne.jp/kamakouza>

<http://blogs.yahoo.co.jp/kamagasaki>

郵便振替 0094-1-132778

はじめに

釜ヶ崎講座会員、読者の皆様、釜ヶ崎講座事務局です。ご無沙汰いたしております。新緑の季節となり、1年で一番過ごしやすい時期となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？昨年11月、N052号以来のニュースを送らせていただきます。拙文ですが最後までよろしく願いいたします。

釜ヶ崎では、つい先日の5月1日、「第49回釜ヶ崎メーデー」が取り組まれました。「あいりんセンター」建て替え・仮移転工事の状況の中、大阪府による「特別清掃事業」予算削減＝1日5名の仕事の取り上げが今年度4月より実施されており、就労拡大、野宿しなくすむ暮らしの仕組みを求めた取り組みの一層の強化が釜ヶ崎メーデーの中心課題として掲げられています。釜ヶ崎就労・生活保障制度実現を目指す連絡会（釜ヶ崎反失連）はメーデー行動後、大阪市・府に上記問題を柱とした要望行動を展開しました。「特掃」削減反対、月13日以上の仕事を増やせ、新たな仕事の仕組みの創出が本年も釜ヶ崎の中心課題です。

そうした課題の後押しとするために釜ヶ崎講座は直近、西成市民館で「第13回学習会」をやらせていただきます。

1. 「第13回釜ヶ崎講座学習会」開催します。

釜ヶ崎講座×釜ヶ崎支援機構 タイアップ企画

仕事づくり集中講座

NO 排除 NO 支援 NO 援助の仕事づくりから学ぶ

話題提供者：ワーカーズネットリングス 木下史郎所長

～様々な生きづらさを抱えた仲間たちで社会を変える～

話題提供者：ワーカーズコープセンター事業団 田中羊子理事長
～東北震災復興の仕事おこしを体感し見えた協同の地域づくり
協同労働で心と地域を切り拓く～

開催日時：2018年6月2日（土） 午後6時30分 開演

会場：西成市民館 3階講堂 西成区萩之茶屋2-9-1

(JR新今宮駅より徒歩10分、西成警察署前右折80M。地下鉄四つ橋線花園町駅東方向へ徒歩8分。南海電車萩之茶屋駅東方向へ徒歩5分。TEL06-6633-7200)

資料代：500円

長い歳月をとうして特別清掃事業を1つの成果としながら対行政に就労の拡大を求め運動してきただけでなく、新たな内容と質を持ち合わせた仕事づくりにもチャレンジしてきた各運動・事業体の歴史が釜ヶ崎にはあります。今回上記の内容にて学習の場を持つと、釜ヶ崎支援機構事務局長の松本裕文さんを中心に釜ヶ崎講座も声掛けをいただいて協同企画しております。

話題提供者の田中羊子さん、木下史郎さんの関東・東北を拠点とした自力による仕事と就労の立ち上げ、運営の体験を聞きながら、その実地のノウハウと人の自立の意味をさぐっていきたいと思います。ご参加をお待ちしております。

ここからは昨年12月以降の釜ヶ崎講座取り組みの報告を簡潔に述べさせていただきます。

2. 釜ヶ崎講座第23回「講演のつどい」開催されました。

講師に白波瀬達也さん、～貧困と地域（あいりん地区から見る高齢化と孤立死）～のタイトルで

昨年、2017年12月2日、大阪市内「エルおおさか」での“つどい”開催は2年ぶりでした。会員をはじめ皆様の当日のご参加、ご苦勞様でした。

当日ゲストスピーカーの白波瀬達也さんは、長年釜ヶ崎でも市民館で働くかたわら、「貧困と孤立」の現実の取材・調査研究を積み重ねて、近年、中公新書から「貧困と地

域」の労作も出されました。現在は府内、桃山学院大学で教鞭をふるっておられると聞いておりますが、今後も釜ヶ崎を接点としてお会いでき、講座も種々アドバイスをうけながらのお付き合いをお願いできればと勝手に考えておりますが……。なにはともあれ、白波瀬先生、当日は大変ありがとうございました。

白波瀬さんの「貧困と地域」の著作でも書かれておりますが、「大阪万博」前後の70年代の釜ヶ崎は「単身男性の住む日雇い労働者」の街として形成されましたが、5～60年代は女性・子供も数多く住む貧困スラム地域だったことが当日も語られていました。この話は毎年恒例の「釜ツアー」の案内役を引き受けてくださる水野阿修羅さんもよく指摘されています。当時、女性の働き方、児童の欠食や未就学問題解決に立ち向かった多くの人士や団体があったことがほうふつと思ひ起こされます。貧困と孤立（死）を防ぎ、ひいてはなくなる社会を創造していく流れは今日の釜ヶ崎にも具体的に脈々と受け継がれ実行されていることを当日の白波瀬さんは強調されました。「ひと花」や「アート」の試みなどが閉ざされていた個々人の思いを開花させて生活再生や就労等につなげていこうとする取り組みが、釜ヶ崎で継続されております。「貧困と孤立」を防ぐリアルでポジティブで多様な施策の実行を発信された当日の白波瀬さんでした。今後も活発な意見交換が保証できる「講演のつどい」になるため釜ヶ崎講座は努力してまいります。今後とも会員はじめ皆様のご意見をお待ちしております。（この項おわり）

3. 第48回釜ヶ崎越冬闘争がたたかわれる。

会員・読者の皆様、2017年も押し迫った12月28日より1月4日まで第48回目の釜ヶ崎越冬闘争が多く釜ヶ崎・当該労働者自らの参加、各団体の支援の輪の中から成功と協働とを導きだしました。釜ヶ崎で生きる労働者がこの時期発する言葉―“本当やったら野宿も越冬の取り組みもせんでいいワシらにとっての制度や暮らしがあれば……”なのですが。この厳寒のさなか、団結した行動で1人の餓死・行路死も出すことなく貫徹されました。しかし臨時宿泊所379名、センター下集団野営をふくめた連日100名をこす野宿を余儀なくされる労働者の現実に国の無慈悲さを想うと共に公的就労の仕組みの構築に参加したすべての仲間が決意を新たに今越冬の闘いでありました。（釜ヶ崎講座は今越冬闘争時期、12月30日、7名の参加にて越冬行動に「連帯行動デー」として参加しました。当日、広島県北をはじめ奈良等遠方からと、ご参加の皆さん、大変ご苦勞様でした。）

また一方ではセンター建て替え工事の進行のなかで高齢化が進む労働者が派遣法や日雇雇用保険適用からの締め付けによる反失業の国への闘いの課題も正念場を迎えています。本年も釜講座はこれら闘いと取り組みへの参加と発信に努力したいと考えています。

さて、最後になりましたが2018年講座恒例の新春釜歩きツアーですが皆様のご協力で成
功裡に行うことができました。約25名の参加にて本年も水野阿修羅さんの案内で地域内を
くまなく廻ることができました。「星野リゾート」など特区構想のラインにそったと思われ
る外国人向け観光関連と実際にはたらく釜在住の外国人の人々の話題もあがりました。外
国人に偏見をもたず、ともに暮らす協働・共生の重要性を水野さんは指摘しました。労働
者を中心とした「寄り場」機能を大事にしながら住民自治を高めていく視点の大事さを感じ
る今回の新春釜あるきツアーでした。当日ご参加の皆様、大変ご苦労さまでした。案内
役の水野さん、いつもありがとうございます。(この項おわり)

◆釜ヶ崎講座事務局からのお願い

いつも釜ヶ崎講座には幅広いご支援、ご協力をいただき感謝しております。

さて釜ヶ崎講座は皆様のカンパにより運営させていただいております。今回も振り込み
用紙同封させて頂いております。皆様のご厚意・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

○編集後記

今回の釜ヶ崎講座と釜ヶ崎支援機構機構のコラボ学習会(6月2日、於・西成市民館)は
釜ヶ崎講座として新しい体験です。学習してそして実践しての連続の勉強の場として考え
てますが、釜ヶ崎での仕事創りに少しでも助力できたらと願っています。やってみないとわ
かりません。皆さん、ぜひ来てください。事務局K